



内閣府 男女共同参画推進連携会議 「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」 を紹介します！

内閣府 男女共同参画推進連携会議とは？

- ◇ 男女共同参画社会づくりに関し、広く各界各層との連携を図り、国民的な取組を推進するため、平成8年9月3日に発足しました。
- ◇ 男女共同参画会議、男女共同参画推進本部とともに 我が国の男女共同参画社会の形成促進のための国内本部機構の一つです。
- ◇ 2015年3月現在、113名(有識者18名と95団体)が議員として活動しています。

「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」とは？

- ◇ 男女共同参画推進連携会議では、男女共同参画推進に関する個別重要課題について具体的、実践的な取組を行うため、チーム活動を展開しています。チームは、男女共同参画推進連携会議の有志議員で構成されています。
- ◇ 東日本大震災の際には衛生用品等の生活必需品が不足したり、授乳や着替えをする場所がなかったり、「女性だから」ということで当然のように食事準備や清掃等が割り振られた避難所も見受けられました。このような中、男女共同参画の視点からの災害対応について平常時から関係者が理解しておくことが重要と考え、本チームでの検討がスタートしました。チームでは、男女共同参画の視点を生かした防災・復興の取り組みに関する意見交換やワークショップを行うとともに組織特性をいかした災害対応ネットワークの構築・検討を行っています。

Introduction to the Cabinet Office Liaison Conference for the Promotion of Gender Equality “Disaster Risk Reduction and Reconstruction Initiatives from a Gender Equality Perspective Promotion Team”

The Cabinet Office Liaison Conference for the Promotion of Gender Equality was inaugurated in September 1996 to facilitate necessary coordination among all sectors and levels of society and promote national activities to create a gender-equal society.

The Liaison Conference organizes 3 promotion teams which take specific and practical initiatives to address important individual issues regarding the promotion of gender equality.

The Team of Disaster Risk Reduction and Reconstruction Initiatives from a Gender Equality Perspective Promotion holds discussions and workshops on disaster risk reduction and reconstruction initiatives focusing on a gender equality perspective. It also examines and establishes disaster response networks that capitalize on the characteristics of the organizations to which its members belong.



(チーム活動の概要)

2014年3月 第1回会合

- ① 震災当時を“男女共同参画の視点”で振り返るとどのような課題があったか？
- ② 連携したチームだからこそ、出来ることは？をテーマとしたワールドカフェを実施しました。



2014年6月 第2回会合

防災・復興に関するチームメンバーの取組状況の報告と意見交換を行いました。



2014年12月 (勉強会) 2015年1月 (第3回会合)

「減災と男女共同参画研修推進センター」から講師をお招きし、防災・復興における男女共同参画の視点と災害時のネットワークの重要性 について学ぶとともに、男女共同参画の視点にたった被災者支援を行うために必要な連携について考えるワークショップを実施しました。
また、チーム参加団体対象のアンケート結果をもとに団体の強み、弱み、協働の在り方について考えるシートを作成し、今後の活用方法等について議論しました。

これまでの検討をもとに、組織の特性（広域性、専門性、機動性等）を生かして他組織と連携し、男女共同参画の視点からの災害対応を実践するためのツールを開発・発信していく予定です。